

滋賀県の特別支援教育における外部専門家活動報告 2 ～窒息リスクに ST が今できること～

こどもとおとなのコミュニケーション支援相談室 きりりん

富田朝太郎

【はじめに】

2023 年 ST 学会で滋賀県の特別支援教育における外部専門家活動を報告した。支援教育において ST に求められる役割、訪問回数や時間など概要。コミュニケーションと摂食に関する療育相談内容と対応。地域連携や後進育成など今後の展望についても多くの参加者と討議する機会を得た。今回は、給食場面での窒息リスクの現状と課題、対応として実施した研修について報告する

【現状と課題】

摂食に関する療育相談は肢体不自由児のケースが多い。口腔運動機能、食事姿勢、食形態、介助方法など。給食場面で難渋するケースへの ST ニーズは高く、より良い摂取環境を教員と直接協議する。また、学校には幅広い障害程度の知的障害児が多く在籍している。彼らの摂食状況は、詰め込み、丸飲み、水分摂取しないなどの窒息リスクが非常に高く見られた。そこで、食事場面での窒息リスク啓発と対応方法の周知を目的として、教員対象研修を実施した。

【研修内容】

2022～2023 年にかけて 4 校で「障害児の摂食機能とリスク管理」と題し研修を実施した。事前アンケートで①②摂食に関する知識や研修受講の有無、③食事場面のヒヤリハットエピソードを確認した。また、富田分類を活用した窒息リスク評価で児童のリスクを数値化し、学校や学部毎のデータ化を図った。研修内容は①障害児の摂食機能：身体構造、発達、摂取段階、②摂食時のリスク：誤嚥・誤飲・窒息、死亡事例、救急対応。事後アンケートで窒息リスクの認識変容を確認した。

【まとめと展望】

窒息は誰でも起こり得るものである。知的障害児は食事摂取量やペース調整が困難なケースが多く、窒息リスクは更に高くなる。口腔運動機能へのアプローチだけでなく、教員の窒息に関する認識向上が課題として挙げられる。ST が学校現場で今できることは、窒息リスク評価と現実的対応の情報発信と考える。学会当日は、アンケート集計結果と研修内容の詳細を報告する。